

平成 29 年 8 月 30 日（水曜日）

励ます会で足立議員「補正予算が必要

建設産業界の職域代表として国政での活躍を続ける足立敏之参院議員を励ます会が28日、東京都千代田区のホテルグランドパレスで開かれた。会場に詰めかけた支援者ら約800人を前に足立議員は、昨年7月の当選から約1年間の活動を振り返りながら、「災害が発生した際など現地へと足を運ぶたびに（建設産業を始めとする）皆さまのご活躍を目の当たりにしている。皆さまにとっては、まだ十分ではないところもあるかもしれないが、これからも政治家として成長していく姿を見ていただきたい」と述べた＝写真。

「頻発化する自然災害から改めて事前防災の必要性・重要性を痛感し

ている。特に道路が防災に果たす役割は非常に大きい。（7月の九州北部豪雨をみても）高速道路ネットワークだけでなく、山間部の道路の強靱化が大きな課題になっている」と指摘。「インフラ整備をしっかりと積み重ねていくために必要な公共投資の確保、特にことは補正予算の編成が必要になる」との考えを示した。

「インフラ整備の担い手である建設産業、あるいは関連産業のこれからの未来を支えていくのが私の使命。（公共投資は）量と質の両面で



の確保が、これからもますます重要になっていく」と力を込めた。

建設業界を代表して祝辞を述べた日本建設業連合会の山内隆司会長は「改正品確法にうたわれている受注者の適正な利潤の確保が、発注者の責務として着実に浸透してきている。大手のみならず、地方・中小の建設企業を含めた業界全体の代表として引き続き（国政での）積極果敢な活動をお願いしたい」と期待を寄せた。

また、中締めを音頭を取った全国建設業協会の近藤晴貞会長は「地域建設業にとっては経営基盤の改善と安定化という解決しなければならぬ喫緊の課題がある。今年度の補正予算は昨年度並みではなく、昨年度以上となるように頑張っていたいただければありがたい」と締めくくった。